

事例37

< 事例概要 >

空気塞栓

- ① 80 歳代、誤嚥性肺炎を繰り返す患者。
- ② 栄養管理、末梢血管確保困難のため、中心静脈カテーテルを留置予定。
- ③ BMI 14.4 kg/m²。脱水あり。内頸静脈虚脱あり。抗血栓薬の使用は無。
- ④ 両下肢を約10 度挙上し、右内頸静脈より超音波を使用せず7～8 回穿刺するが、動脈誤穿刺あり圧迫止血。部位を変え、右大腿静脈から同様に7～8 回穿刺したが再び動脈誤穿刺あり、圧迫止血し中止した。翌日、痰詰まりがあり経皮的動脈血酸素飽和度（以下 SpO₂） 70%に低下。吸引や酸素投与で改善したため、下肢挙上（仰臥位でヘッドダウン10～15 度）し、右内頸静脈をリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。カテーテルを挿入し逆血を確認したが約15 分後、血圧低下、SpO₂ 60%に低下し、穿刺から約1 時間後に死亡。
- ⑤ 死因は、化膿性肺炎による呼吸不全。死亡時画像診断（以下Ai） で内頸静脈、鎖骨下静脈、右心室への空気混入、肺動脈への空気混入を認めたが、わずかであり循環動態に影響を与える程でなかったとの結論。Ai有、解剖有。